

令和4年度第1回 住んでこそ！東山プロジェクト協働プロジェクト 摘録

1 日時

令和4年9月20日（火） 午後1時30分～3時30分

2 場所

東山区役所地下1階 会議室1（京都市東山区清水五丁目130番地の6）

3 内容

情報共有

- (1) 住むうえでの魅力の情報発信
- (2) モデル事業1 東山試住計画（お試し居住）
- (3) モデル事業2 ワンルームマンションの空き室活用
- (4) 路地を活かした暮らしの模索
- (5) アイデアソンとその後のチーム議論
- (6) 買い物支援
- (7) 子育て支援

【東山試住計画(お試し居住)、ワンルームマンションの空き室活用についての御意見】

- ・事業者にはアイデアとエネルギーがあるため、事業者の立場や事業者としての意見を伝えることが大切である。
- ・事業者が学識や行政と情報交流できるのは貴重な機会である。
- ・若い世代は地域への関心が高いため、アイデアを出してもらうことは大事だ。
- ・地縁が無いと東山区内で物件を探したり、買ったりすることが難しい。しかし、地域とのつながりを持つことで居住先が見つかる。
- ・逆に、住みたい人がエントリーして物件を持つ大家さんが住む人を選ぶ取組も他事例である。
- ・空き家の活用は長年取り組んでいても難しい。空き家の見守りボランティアを続けながら、長い時間をかけて大家の説得を行う必要がある。
- ・空き家の問題についてどこに相談すればよいかわからない。
- ・若い世代に向けて、「家賃・費用が高い」という問題をどうにかしないといけない。
- ・路地奥は家賃が安く、不動産屋は路地奥であることを表に出さないことが多いが、好んで住む人はいる。
- ・現在のシェアハウスはコミュニティを重視している。
- ・東山試住計画（お試し居住）は、ゲストハウスは整備されていて使いやすいが、観光客減少時の対策とされると趣旨がずれる。路地奥（短期だったら貸してもいい、片づけをしてくれるなら貸してもいい）の掘り起こしに使ったほうが良い。
- ・ワンルームマンションの空き室活用については、全国の大都市のためにもなると考えている。

【アイデアソンとその後のチーム議論】

- ・アイデアソンに参加したことによって、自分が住んでいる学区以外のことを知り、知見が広がった。
- ・東山区の中でもそれぞれの地域に魅力があり。面白いため、様々なつながりを持ちたい。
- ・様々なアイデアを出し合い、出して終わりにならないように動いていきたい。
- ・動いていくためには、地域の人々のサポートが必要となる。